

团体

アンケート調査から読み取れる声（抄）

問 10 活動の頻度

- ・「月 1～2 日」「年 6～11 日」が増加し、「月 3～4 日」が減少

問 11 活動の範囲

- ・「市内一部」が増加、「市内全域」が減少

問 12 他のグループとの交流や協力関係

- ・「社会福祉協議会」がトップ。次いで、「町内会・自治会」と「市役所」が同率

問 14 活動で困っていること

- ・「資金」と「メンバー不足」

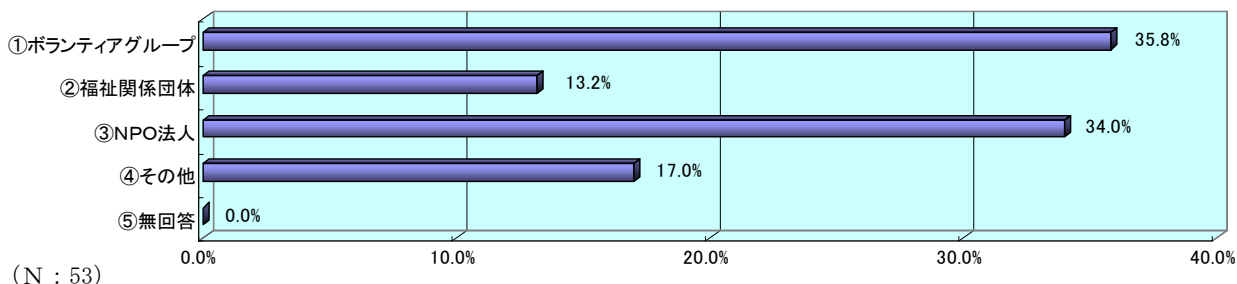
問 20 住み慣れた地域で安心して生活していくために必要なこと

- ・「他の団体や関係機関との交流をもつ」「町内会など、地域団体と連携して活動の場を広げる」が半数以上、「団体が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する」「ボランティアスタッフを積極的に受け入れる」が約 3 割

■基本属性について

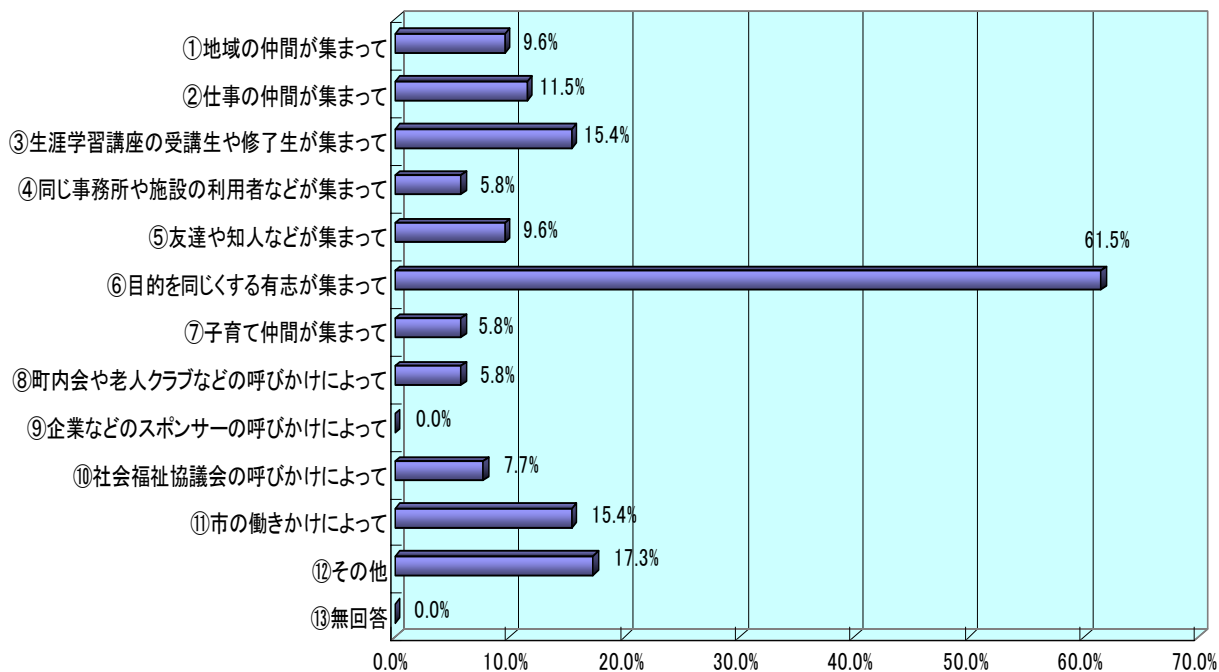
問 1 団体の種類

回答があった 53 団体の種類では、「ボランティアグループ」が 35.8%で最も多く、次いで「NPO 法人」、「福祉関係団体」の順となっています。



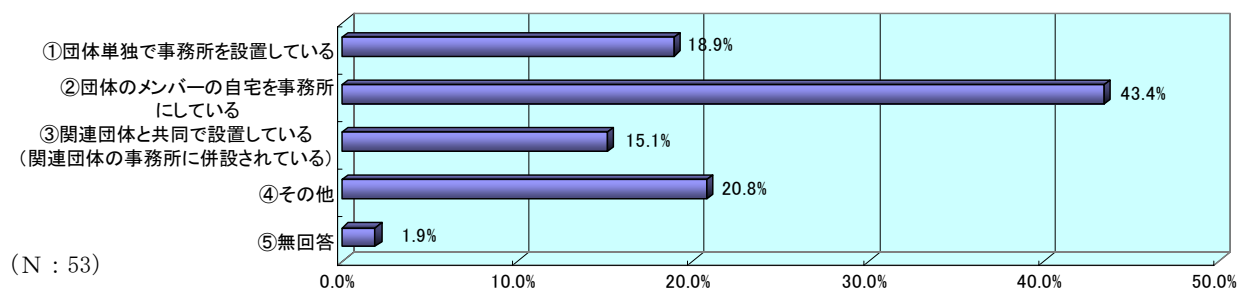
問 2 活動をはじめた(設立された)きっかけ、いきさつ(あてはまるものすべて)

それぞれの団体が活動をはじめた（設立された）きっかけ、いきさつについて見ると、「目的を同じくする有志が集まって」が 61.5%と最も多い回答となっています。



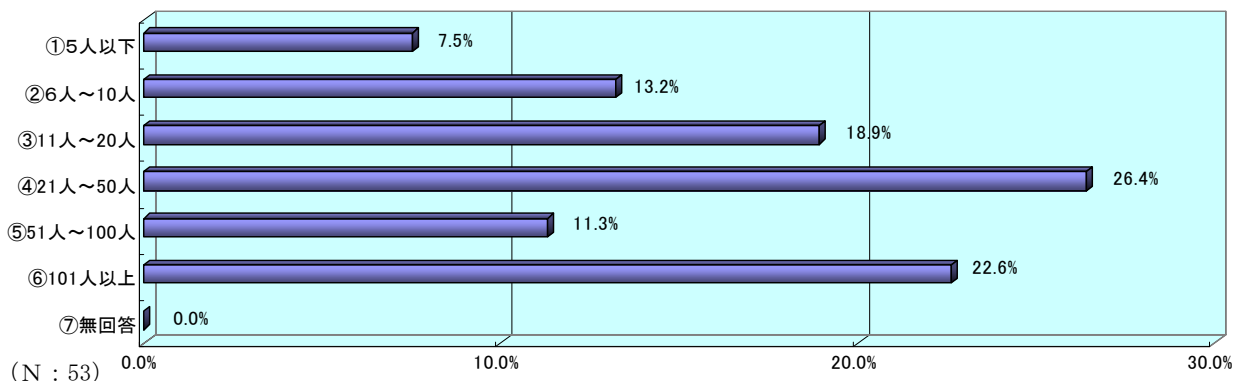
問 3 事務所の設置形態

それぞれの団体の事務所をどのような形態で設置しているかを見ると、「団体のメンバーの自宅を事務所としている」ケースが43.4%で最も多い設置形態となっています。



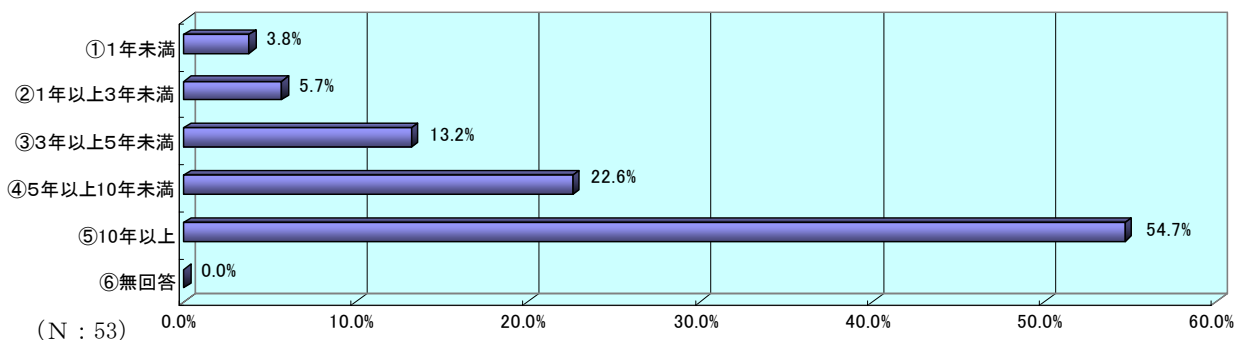
問 4 メンバーの人数

それぞれの団体のメンバーの人数では、「21人～50人」の構成が26.4%で最も多い人数となっています。



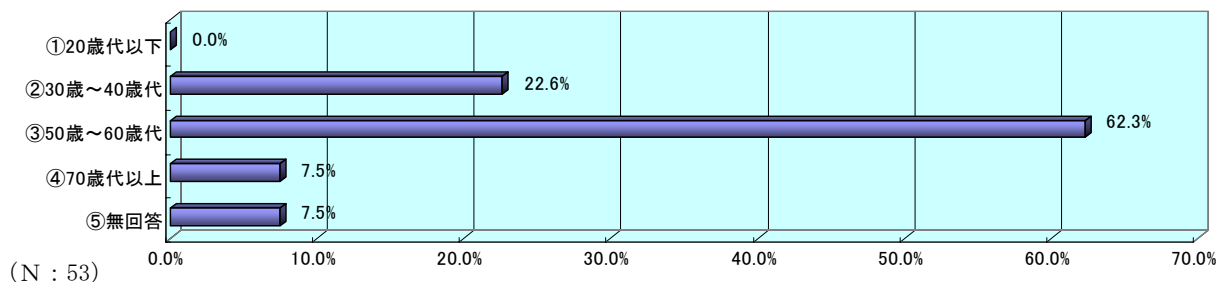
問 5 活動年数

それぞれの団体の活動年数を見ると、「10年以上」が最も多く、活動年数が少なくなるに従って団体数も減少しています。



問 6 メンバーの平均年齢

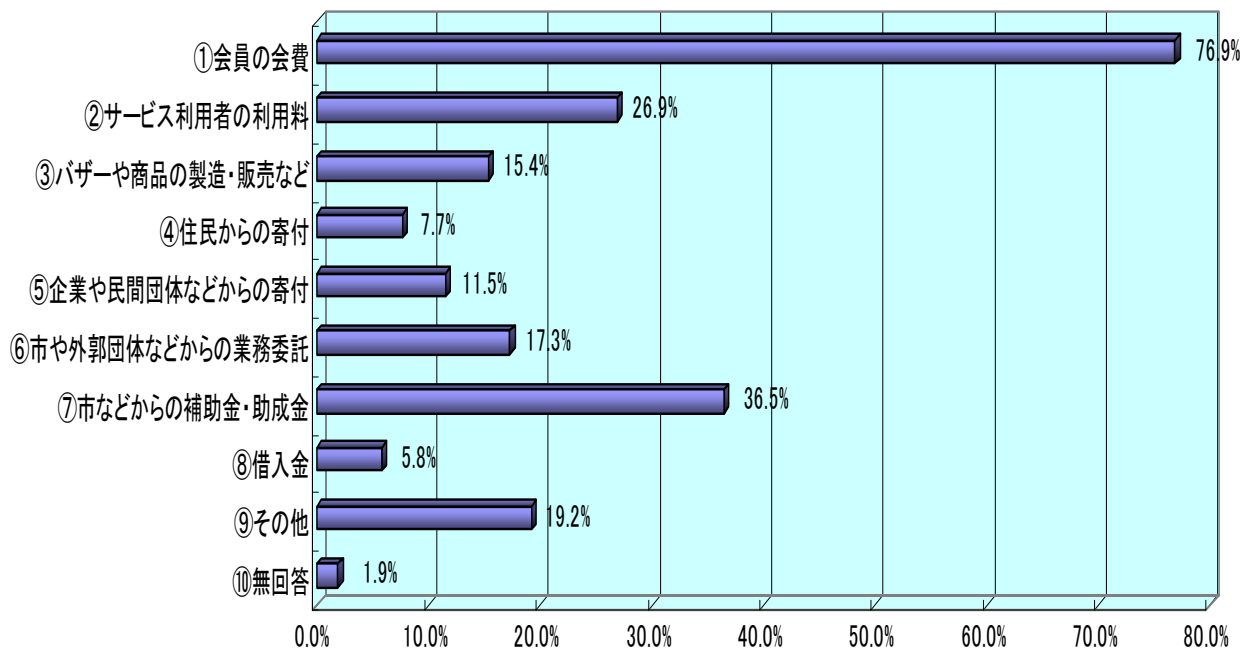
それぞれの団体のメンバーの平均年齢を見ると、20歳代以下の団体はなく、最も多い平均年齢は「50歳～60歳代」と年長者が中心となって活動している団体が多い結果となっています。



問 7 主な活動資金および活動資金を得る方法(あてはまるものすべて)

【現在の主な活動資金】

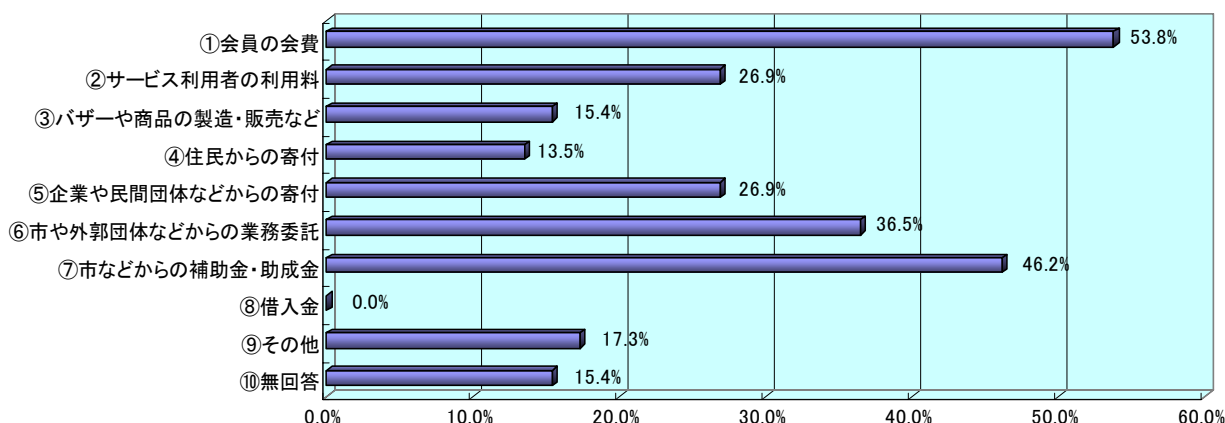
それぞれの団体の現在の主な活動資金を見ると、「会員の会費」が75.0%で、重要な活動資金源となっています。次いで「市などからの補助金・助成金」が36.5%となっています。



(N : 53)

【活動資金を得るのに将来的によいと思う方法】

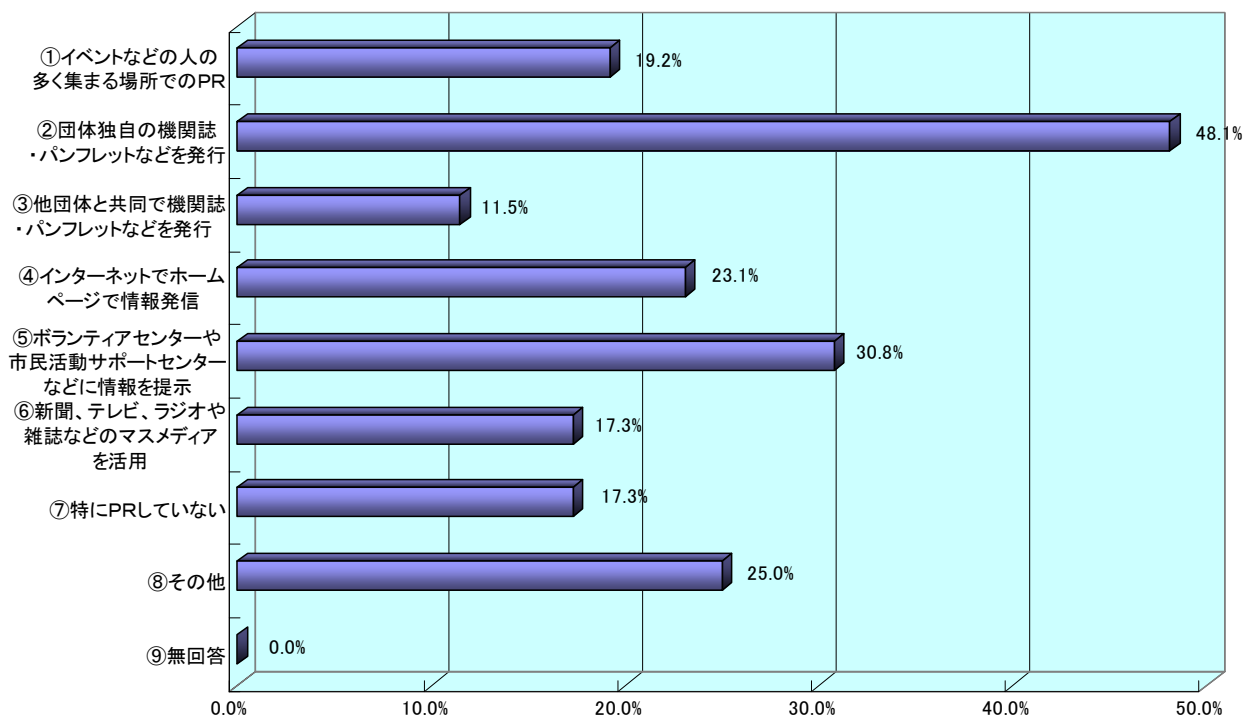
それぞれの団体に活動資金を得るのに将来的によいと思う方法を尋ねたところ、「会員の会費」、「借入金」の割合が現状の活動資金の割合と比較して低くなった以外は、すべて高い割合となっています。特に「市や外郭団体などからの業務委託」、「市などの補助金・助成金」、「企業や民間団体などからの寄付」が現状と比較して割合が高くなっています。



(N : 53)

問 8 活動のPR、メンバー・ボランティアの募集等の方法(あてはまるものすべて)

それぞれの団体に活動のPR、メンバー・ボランティアの募集等の方法を尋ねたところ、「団体独自の機関誌・パンフレットなどを発行」、「ボランティアセンターや市民活動サポートセンターなどに情報を提示」、「インターネットホームページで情報発信」の割合が高くなっています。



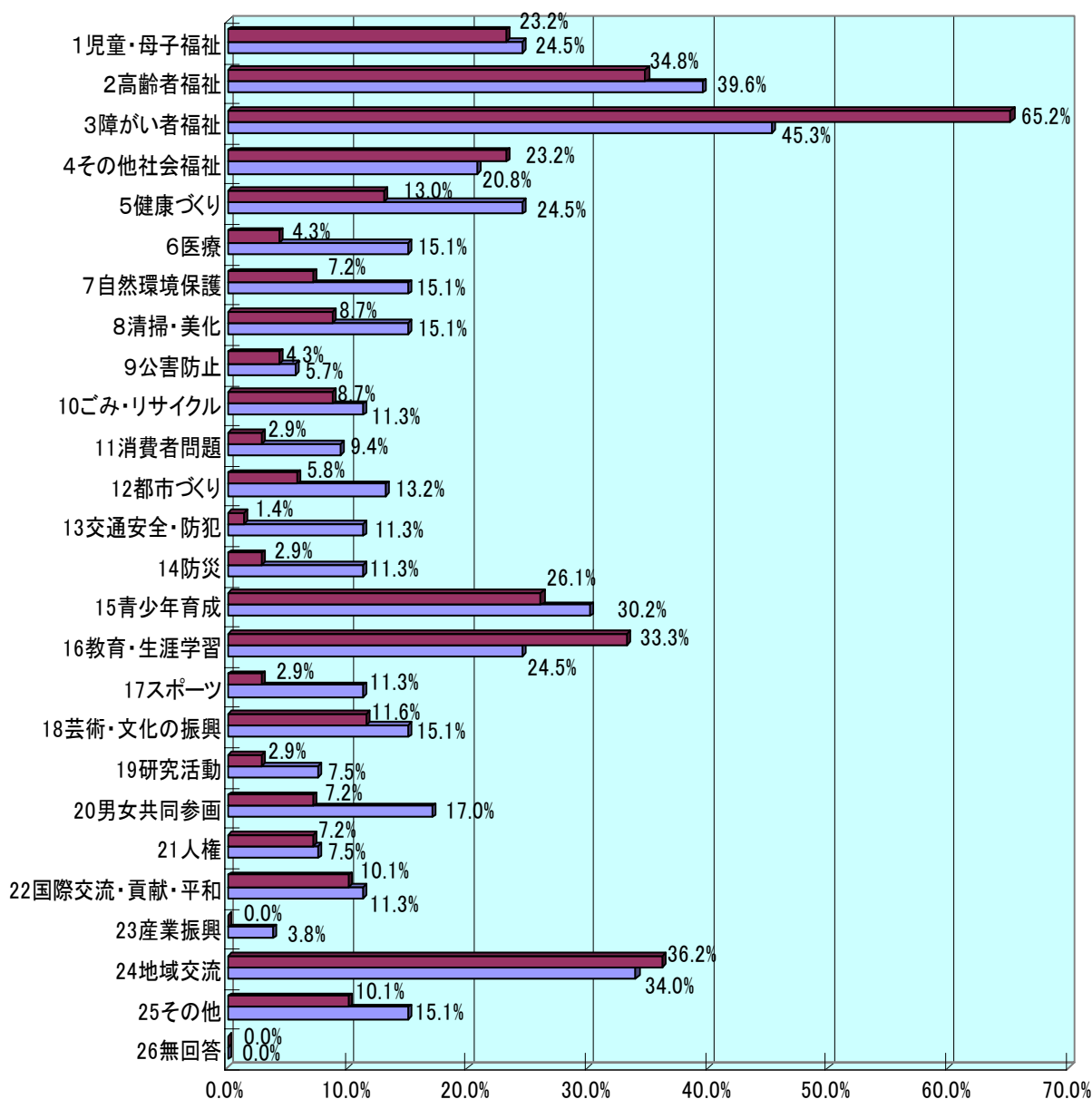
(N : 53)

■活動について

問 9 取り組んでいる活動分野(あてはまるものすべて)

各団体が取り組んでいる活動分野では、「障がい者福祉」が45.3%と最も多く、回答があった約半数の団体が取り組んでいます。次いで、「高齢者福祉」、「地域交流」については、約3分の1の団体が取り組んでいます。

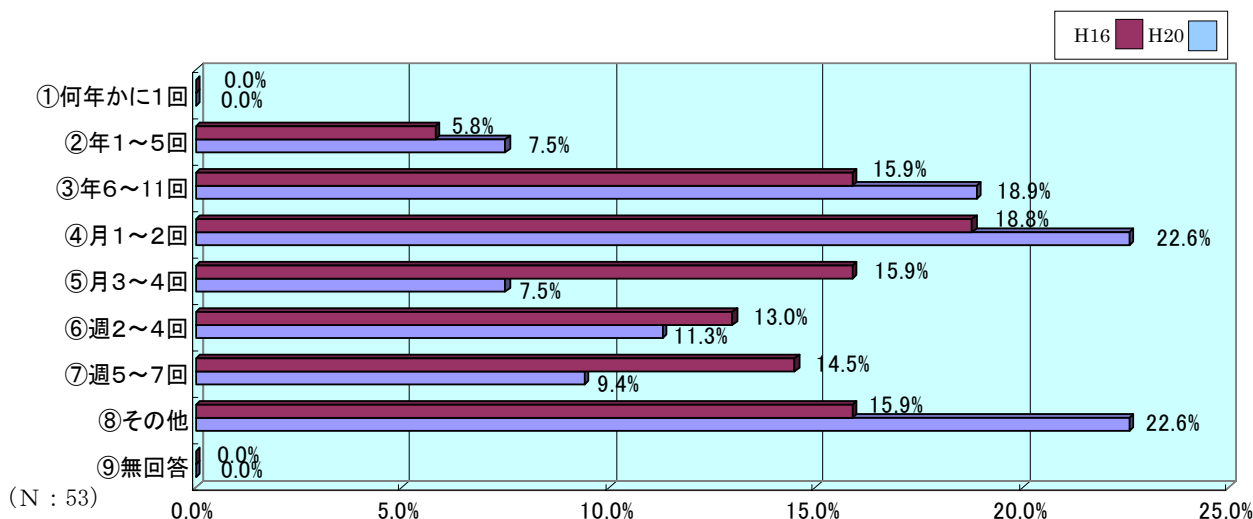
H16 H20



(N : 53)

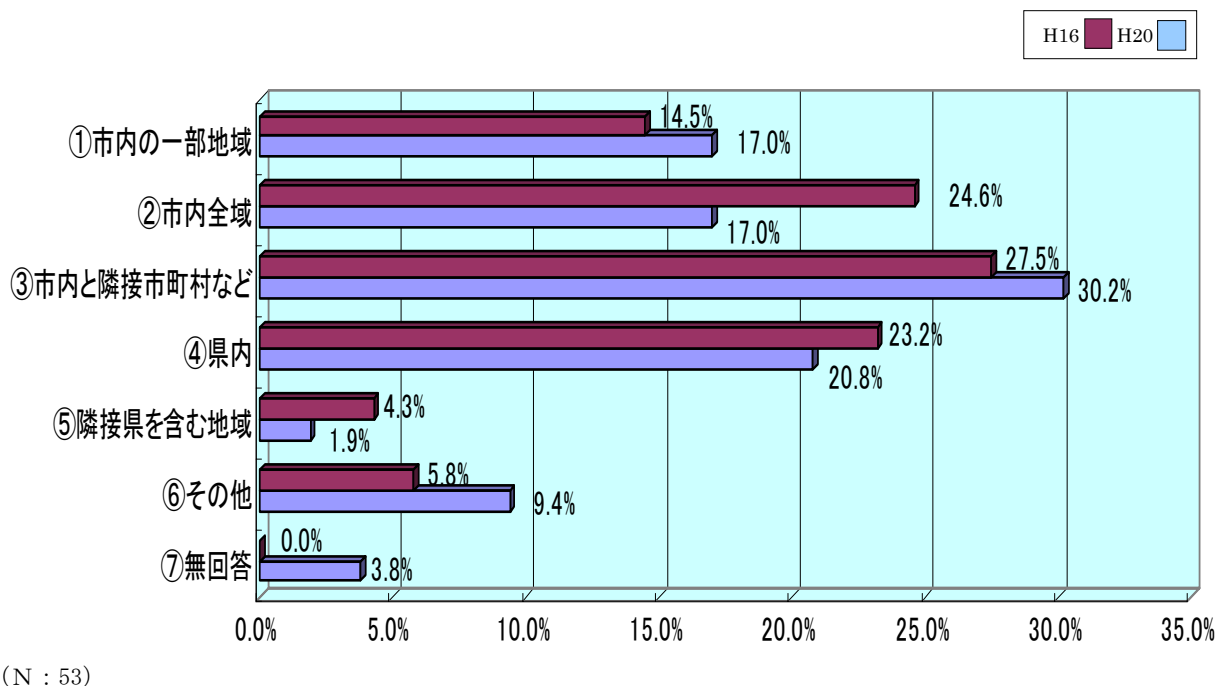
問 10 活動の頻度

それぞれの団体の活動の頻度では、「月1～2回」の活動が最も多い回答となっています。その他の記述では、「毎日」、「年間100回以上行っている」、「盆・正月休み以外年中無休」などの記述がありました。



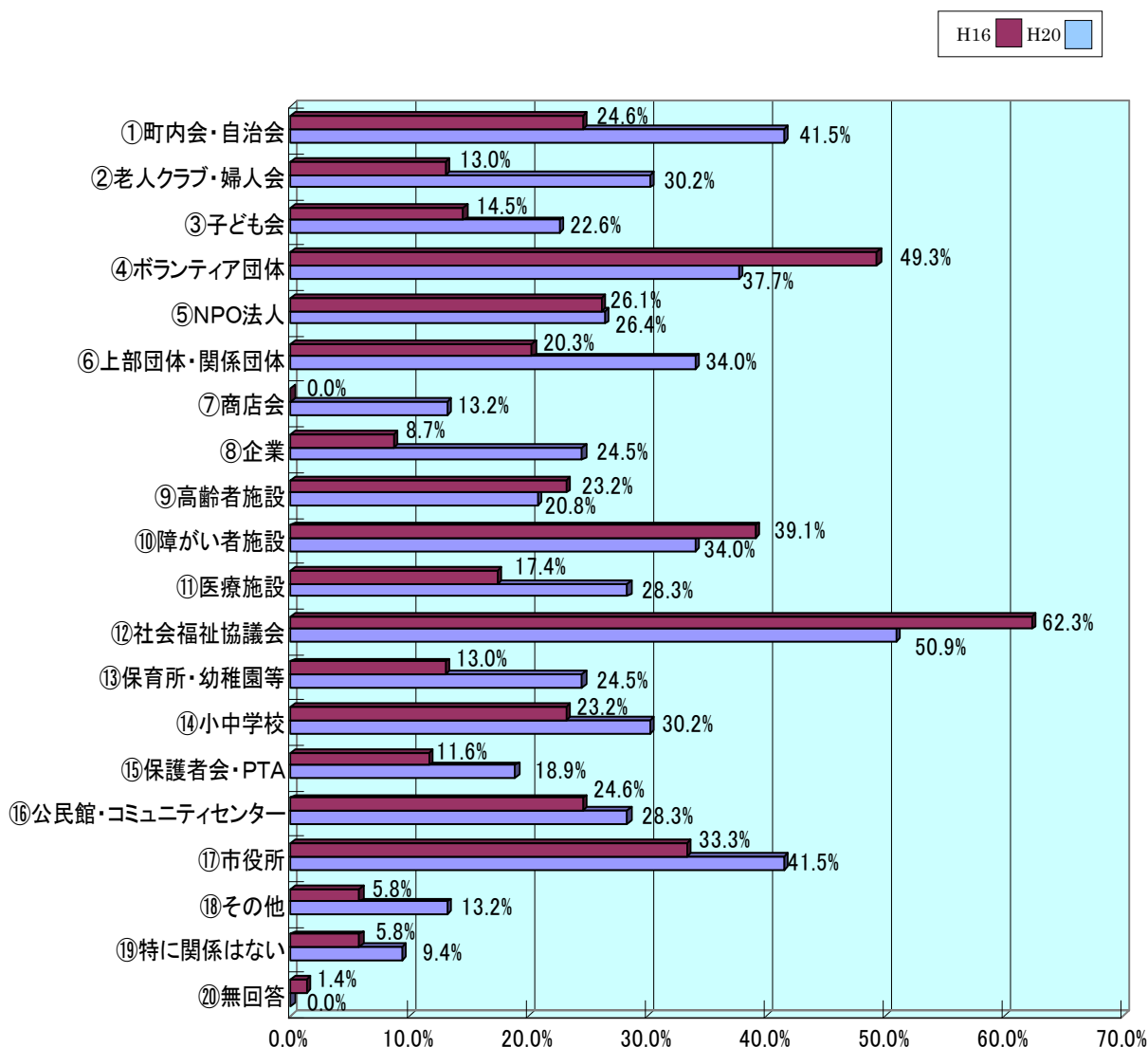
問 11 活動の範囲

それぞれの団体の活動範囲では、「市内と隣接市町村」が最も多く、次いで「県内」、「市内の一部地域」、「市内全域」、の順となっています。



問 12 他グループ・団体や公共機関などと交流や協力関係の有無（あてはまるものすべて）

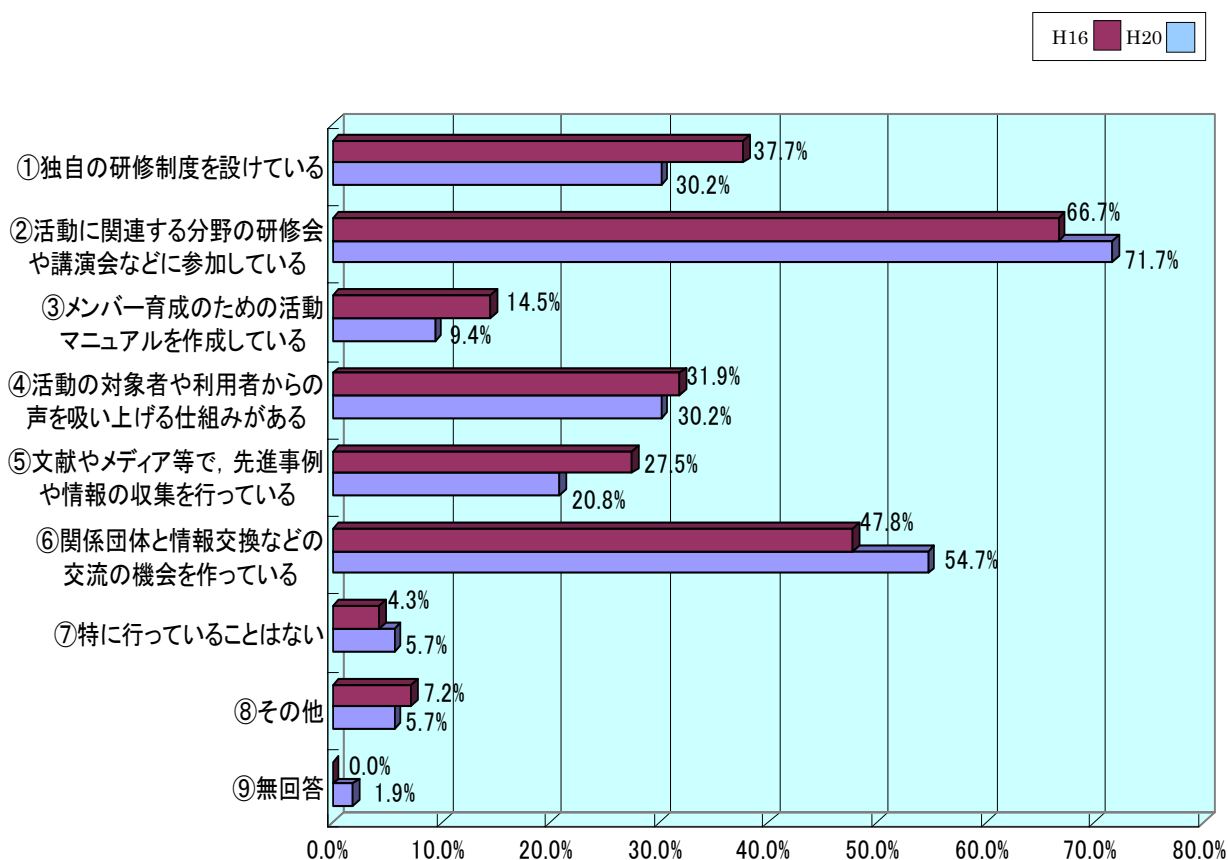
それぞれの団体の他グループ・団体や公共機関などとの交流や協力関係を見ると、「社会福祉協議会」との関係が最も多く、次いで「市役所」、「ボランティア団体」、「障がい者施設」の順となっています。また、「特に関係はない」と回答した団体は、5団体となっています。



(N : 53)

問 13 活動の質を向上させるための取り組み（あてはまるものすべて）

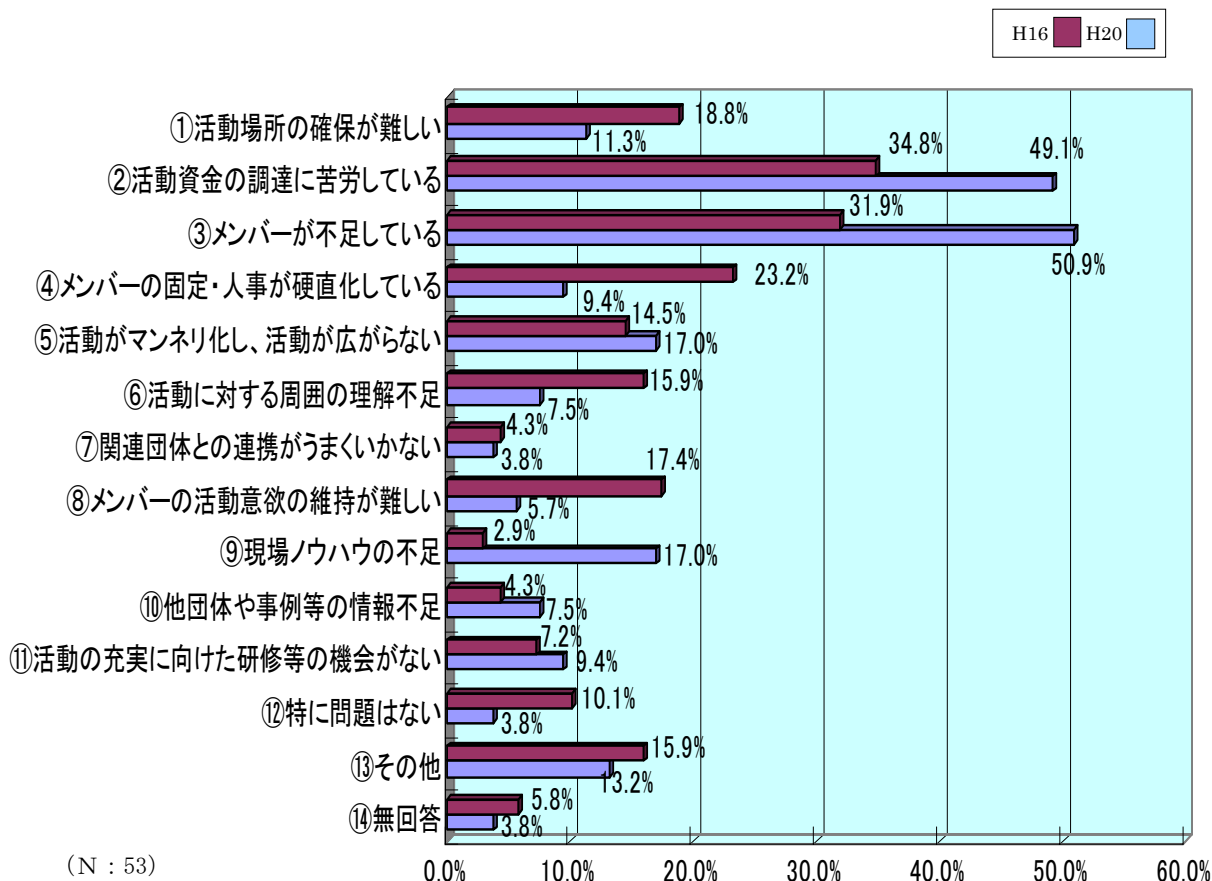
それぞれの団体の活動の質（サービスの質や活動の質など）を向上させるための取り組みを見ると、3分の2以上の団体が「活動に関連する分野の研修会や講演会などに参加している」、約半数の団体が「関係団体と情報交換などの交流の機会を作っている」に取り組んでおり、「特に行っていることはない」と回答した団体はわずか3団体のみで、各団体ともに活動の質の向上に取り組んでいることが推測されます。



(N : 53)

問 14 活動を行ううえで困っていること(あてはまるものすべて)

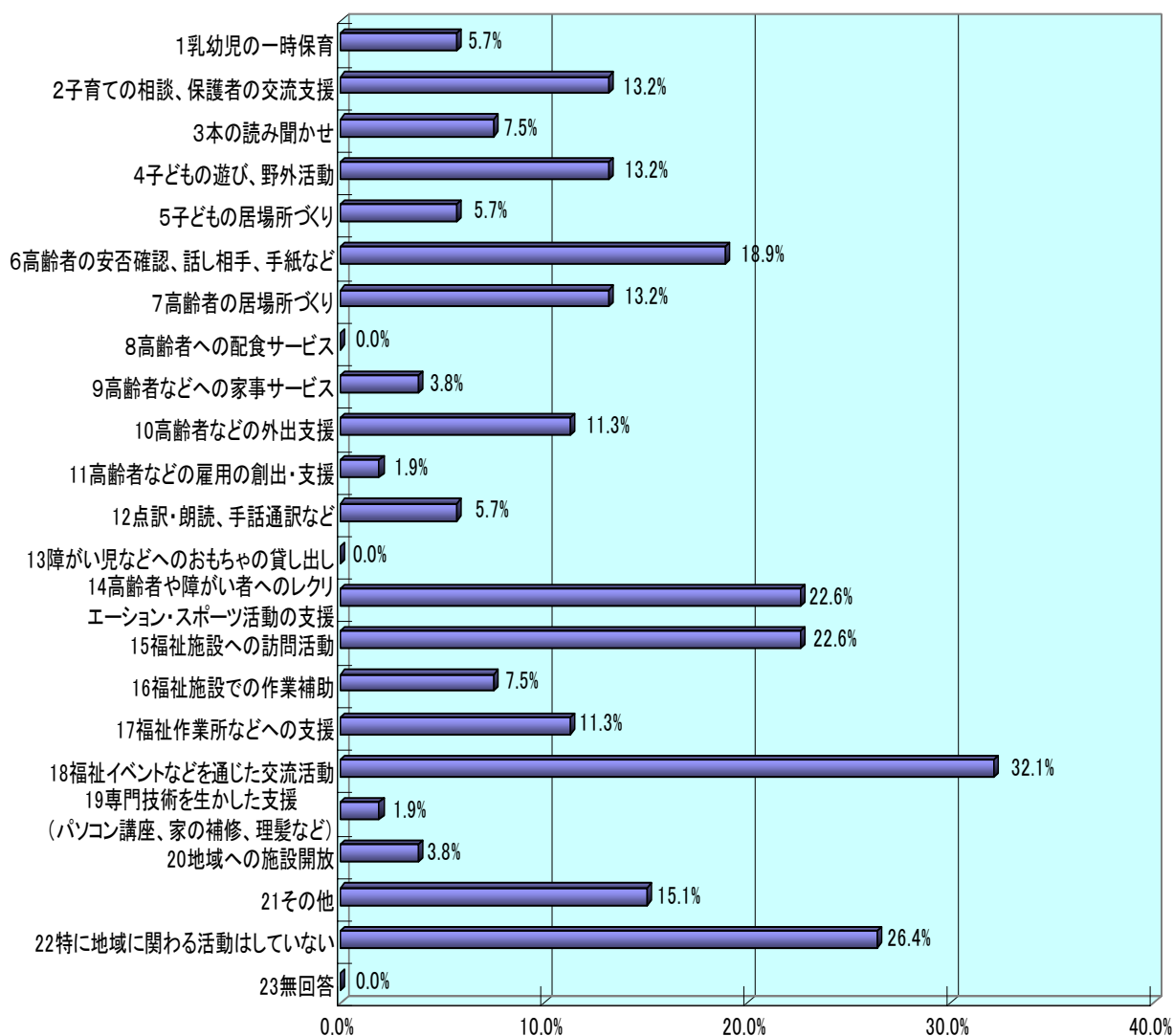
それぞれの団体が活動を行ううえで困っていることでは、「活動資金の調達に苦勞している」、「メンバーが不足している」が最も大きく、次いで、「活動がマンネリ化し、活動が広がらない」、「現場ノウハウの不足」があげられています。団体のメンバーの平均年齢が50歳～60歳が最も多いことに関連した結果であることが推測されます。



問 15 町内会など地域でどのような福祉活動を行っているか(あてはまるものすべて)

それぞれの団体が地域で行っている福祉活動では、「福祉イベントなどを通じた交流活動」が32.1%と最も高く、次いで「高齢者や障がい者へのレクリエーション・スポーツ活動の支援」と「福祉施設への訪問活動」が22.6%となっています。

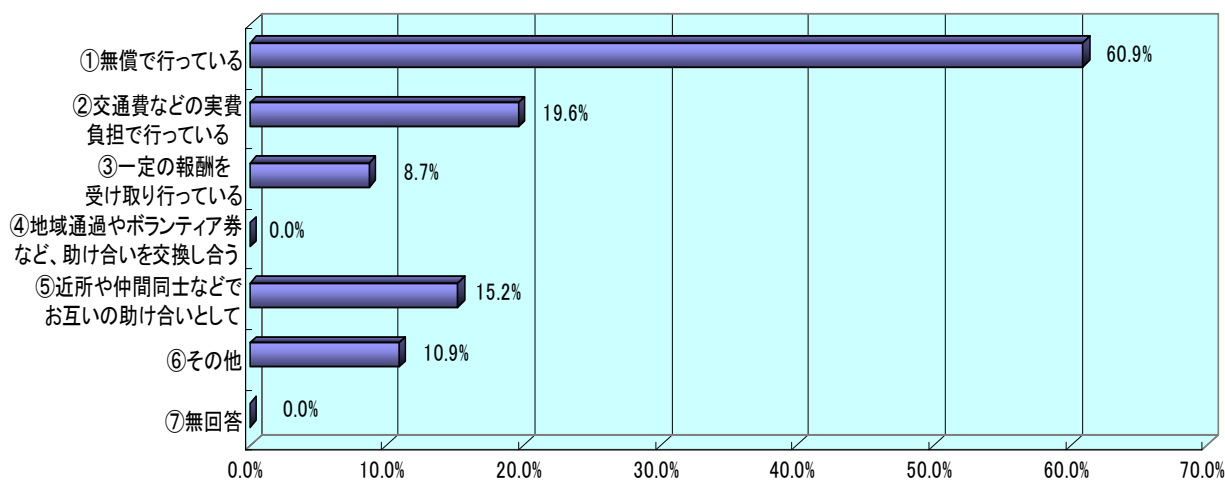
「特に地域に係わる活動はしてない」と回答した団体は26.4%となっています。



(N : 53)

問 16 行っている地域福祉活動の形態（あてはまるものすべて）

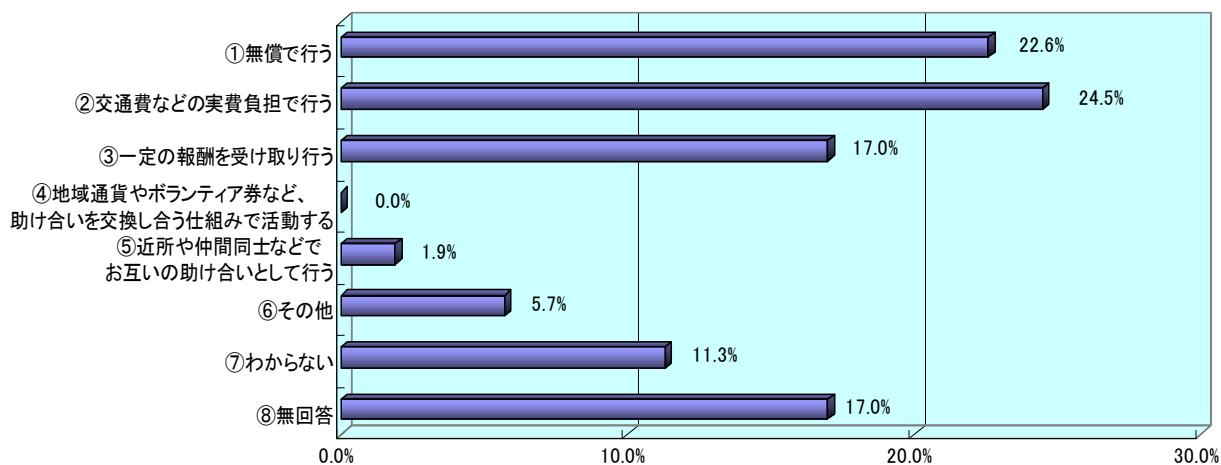
それぞれの団体の活動形態は、「無償で行っている」が60.9%と最も多くなっています。



(N : 53)

問 17 地域活動を行う場合の望ましい形態（あてはまるものすべて）

それぞれの団体が望ましい活動形態と考えているのは、「交通費などの実費負担で行う」が24.5%と最も高く、次いで「無償で行う」が22.6%、「一定の報酬を受け取り行う」が17.0%となっています。

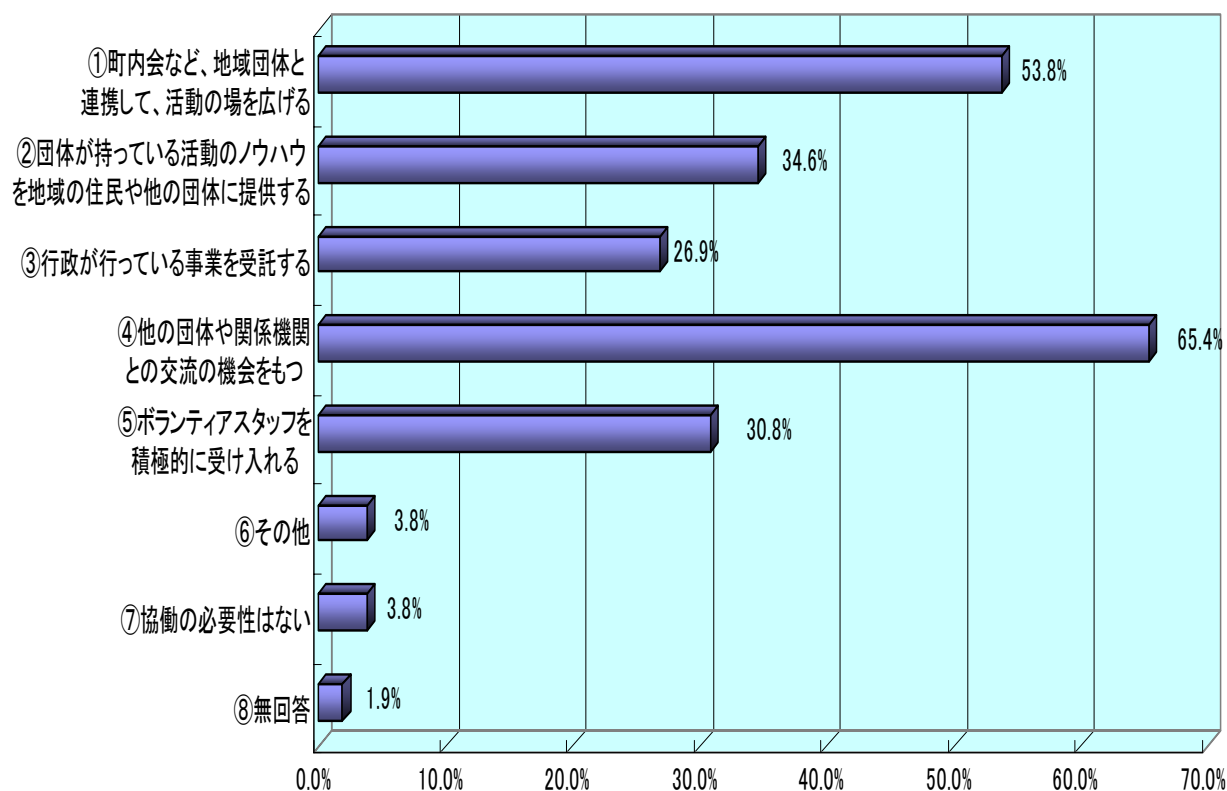


(N : 53)

■ 今後の活動意向・要望について

問 19 誰もが住みなれた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めるために必要なこと
（あてはまるものすべて）

誰もが住みなれた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めるために必要なことを尋ねたところ、「他の団体や関係機関との交流の機会を持つ」が 65.4%と最も多く、次いで「町内会など、地域団体と連携して、活動の場を広げる」が 53.8%と半数以上となっています。



(N : 53)